

国立天文台・天文情報センター・特別客員研究員 中桐正夫

### \* 天文機器資料館に「すばる」建設時の写真パネル展示

筆者はハワイに建設した大型光学赤外線望遠鏡「すばる」の建設グループの中心メンバーの1人で、建設時の8年間をハワイで過ごした。「すばる」計画は実に長年の紆余曲折を経て建設された世界最高性能の望遠鏡で、現在でもその性能は高く評価され、最先端のデータを出し続けている。天文機器資料館には、「すばる」に関係した展示は少なく2点が展示されていた。1) すばるの第1期観測装置の一つ「CIAO」、2) 主焦点観測装置開発用平坦化光源装置の二つである。「すばる」の第1期観測装置ですでに役目を終えたものもあるが、観測所がハワイにあること、観測装置が大型であることから日本に持ち帰り博物館で展示することは容易ではない。「CIAO」はなんとか持ち帰り天文機器資料館に展示できたが、今後、こういった役目を終えた観測機器の扱いは決まっていない。

今回は、「すばる」建設時の写真パネル3点を筆者が収蔵していたので、天文機器資料館に展示スペースを見つけ写真1のように展示した。

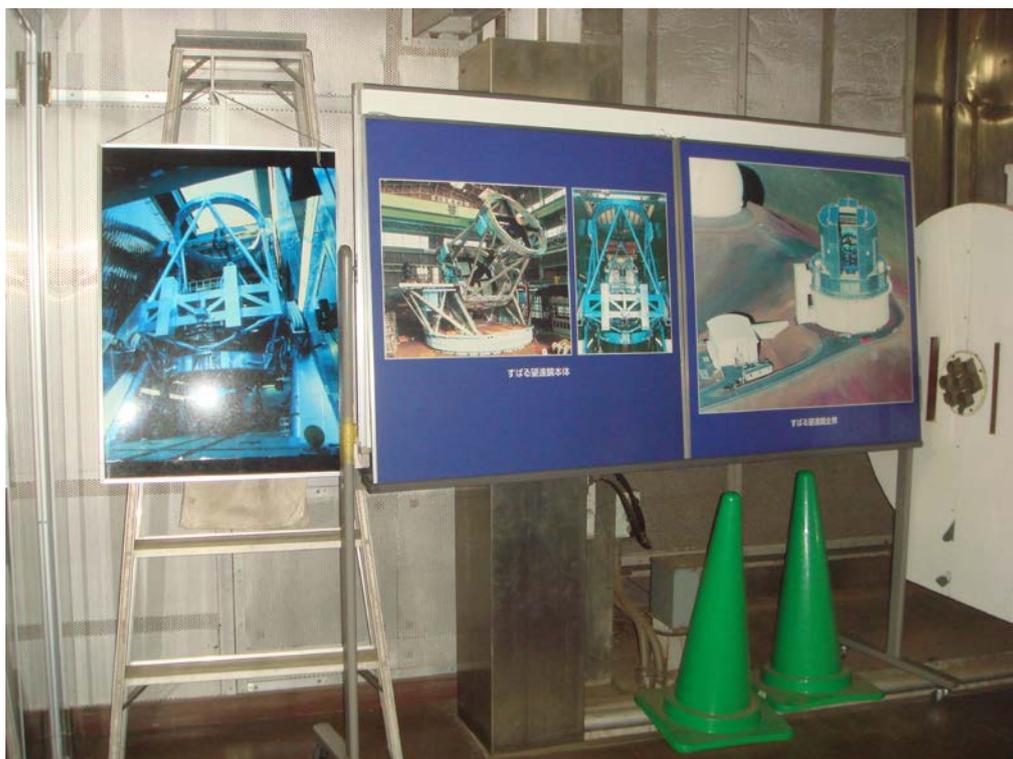


写真1 展示された「すばる」建設時の写真パネル3点

写真1の左の写真は完成時の「すばる」であり、中央の左の写真は大阪・桜島の日立造船桜島造船所で仮組中の「すばる」であり、中央右の写真はマウナケア山頂での組み立て中の「すばる」である。右の写真は、マウナケア山頂に完成した「すばる」の航空写真で

ある。「すばる」の製作会社は三菱電機なのだが、この写真のように仮組は日立造船で行われた。そして望遠鏡の大型構造物の多くはこの造船所で製造されたのである。「すばる」は日本の英知、世界の英知を三菱電機の優れたエンジニアがシステムとして作り上げた世界に誇れる望遠鏡なのである。

筆者としては、「すばる」建設の過程を一望できる展示をしたいと思っているが、スペースの関係で難しい。このようにして少しずつでも進めていきたいと考えている。

写真2が、天文機器資料館に展示された「CIAO」、写真3が「主焦点観測装置開発用平坦化光源装置」である。



写真2 天文機器資料館に展示されているすばるの「CIAO」

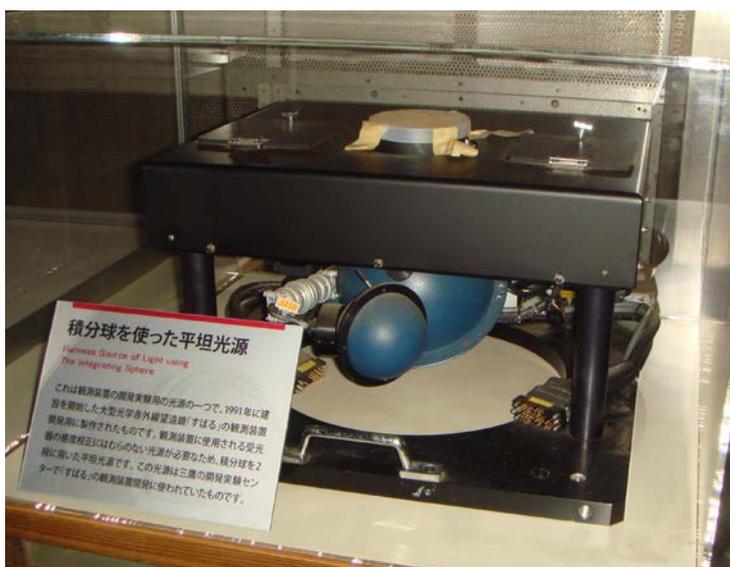


写真3 すばるの主焦点観測装置開発用平坦化光源装置

天文機器資料館は言わば、博物館である。博物館に収蔵されるものはすでにその役目をおえたものである。写真1の右2枚の写真パネルを載せている白板もすでに使われることなくなった役目を終えたものであり、天文機器資料館に展示する天文関係の機器類のほか、展示に用いる台、机の類も本来の役目を終えたものを有効利用しているものが多い。

最近の時間の流れは速く、役目を終えていく機器も多い。筆者はできうる限りこれらの有効利用に心がけている。

これらアーカイブ新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、[arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp](mailto:arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp)